

ぱびるす



聖学院大学総合図書館報

第67号 (2018年秋)

特集

大学創立30周年
記念号



聖学院大学総合図書館のあゆみ

年表で振り返る図書館の歴史

| 年度 | 図書館のうごき | 聖学院大学のうごき |
|--------------|--|--|
| 1967年 (S42年) | 女子聖学院短期大学図書館 (1号館内) 7000冊の蔵書で開設 | 女子聖学院短期大学開学 |
| 1982年 (S57年) | 本館 (現・図書館棟) 竣工 | |
| 1988年 (S63年) | 聖学院大学総合図書館に館名変更 開館時間延長 平日 8:45~18:00 土曜日 8:45~14:00 | 聖学院大学開学 政治経済学部政治経済学科を設立 聖学院大学総合研究所を設立 |
| 1989年 (H元年) | 図書館報「館報」から「ぱびるす」に改題 | |
| 1990年 (H2年) | ミューラ文庫、工藤隅谷文庫を開設 | |
| 1991年 (H3年) | 蔵書100,000冊突破 | |
| 1992年 (H4年) | 人文学部開設にあたり蔵書が大幅に増加 | 人文学部欧米文化学科、児童学科を増設 |
| 1993年 (H5年) | SEULIS (聖学院大学総合図書館情報サービス) 稼働 NACSIS-CAT、ILL 接続開始 | 聖学院90+110周年記念一万人のクリスマス in 武道館開催 |
| 1996年 (H8年) | 開館時間延長 平日 8:45~21:50 土曜 8:45~17:00 | 聖学院大学大学院政治政策学研究科を設立 |
| 1998年 (H10年) | 図書館ホームページ開設 | 人文学部に日本文化学科、人間福祉学科を増設 |
| 1999年 (H11年) | 図書館システム SILIUS 稼働 蔵書200,000冊突破 | 大学院にアメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科を設立 政治経済学部コミュニティ政策学科を増設 短大を大学に改組転換 |
| 2000年 (H12年) | エレベーター設置 | |
| 2002年 (H14年) | 入口に返却ポストを設置 | 情報センター構想委員会が「総合情報センター構想案」を提案 |
| 2003年 (H15年) | マスコットキャラクター「viewくん」誕生 ノートPC 貸出開始 | |
| 2004年 (H16年) | 海外 ILL 開始 | 人間福祉学部を増設 児童学科、人間福祉学科を移設 チャペル竣工 |
| 2005年 (H17年) | 1階部分が図書館フロアに改修され、建屋名称が図書館棟となる 図書館システム UNIPROVE 稼働 | ラーニングセンターが、図書館2階 (現在のアクティブラーニング室D) に設置 (2008年に4号館へ移設) |
| 2006年 (H18年) | 入館ゲート設置 法人三校図書館連携が本格的に始まる | 聖学院大学大学院人間福祉学研究科を設立 |
| 2008年 (H20年) | SERVE (聖学院学術情報発信システム) 公開 | 聖学院大学20周年 |
| 2011年 (H23年) | 東日本大震災のため3月27日まで休館 公式 Twitter 始動 | シャローム館建替え |
| 2012年 (H24年) | 本の装備方法を変更 (カバーを残す) 2階女子トイレ改装 | 人間福祉学部にかども心理学科を増設 ボランティア活動支援センター開設 |
| 2013年 (H26年) | 4階と2階にアクティブラーニング室を開室 | 地域連携教育センターを設立 |
| 2014年 (H26年) | 全国大学ビブリオバトル地区予選を初開催 | 聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科、政治経済学科と一体化して再編 |
| 2015年 (H27年) | 図書館サポーター「セラエノ」活動開始 蔵書300,000冊突破 OKEGAWA hon プラス+での公開イベント定期開催が始まる 夏期休暇期間に高校生向け図書館開放が始まる | |
| 2016年 (H28年) | SERVE、JAIR Cloud へ移行 人文学部主催で第1回高校生ビブリオバトル・ワークショップ開催 | |
| 2017年 (H29年) | 埼玉県で初となる全国大学ビブリオバトル地区決戦を開催 | |
| 2018年 (H30年) | 「学術と音楽の集い 宗教改革500+1年」を開催 土曜日に高校生向け図書館開放が始まる | 聖学院大学30周年 心理福祉学部を増設し、人間福祉学科、こども心理学科を心理福祉学科に再編 児童学科を人間福祉学部から人文学部に移設 |

図書館報の移り変わり

本館の図書館報の歴史を紐解くとその始まりは女子聖学院短期大学時代に遡る。『リョくせい』という題号で、1980年（昭和55年）に創刊され、1987年（昭和62年）までに第9号が発行されている。

1988年（昭和63年）、聖学院大学開学に伴い館名が「聖学院大学総合図書館」に改名されると『りょくせい』を引継ぐ形で『館報』第10号を発行。翌1989年（平成元年）には現在の題号『ぱびるす』に変更され、現在まで年に2回のペースで発行が続いている。

また、29号までは誌面はB5サイズで作られていたが、第30号（2000年4月）よりひと回り大きいA4サイズで作られるようになり、より見やすい誌面となった。

図書館の歴史



女子聖学院短期大学図書館 (1)

短大図書館の移り変わり

女子聖学院短期大学開学当初、1号館1201教室に図書室が設置されていた。

その後、1号館の4～5階を増築し、4階に司書室、閲覧室、5階に書庫、特別書庫を設置し図書収容能力が4万冊の図書館となった。1982年に本館（現・図書館棟）が竣工すると図書館は1号館から本館の2～4階へ移転した。



図書館カウンター



4階閲覧室で勉強する学生

館報で振り返る

ぱびるす 第29号 (1999年11月)
1999年11月1日発行 | 編集：聖学院大学総合図書館
〒762-8587 徳島県上三好市戸田町1番1号
電話 089-723-5441
FAX 089-760-2099
E-mail: lib@seigakuin-u.ac.jp

コンピュータを使った資料検索方法
—SEULIS II (Seigakuin University Library and Information Service Version2)—

第29号 (1999年11月)
コンピュータを使った資料検索方法

コンピュータ時代 到来

パソコンやネットワーク通信の普及に合わせて、図書館システムの導入やインターネットを用いたサービスを展開。
館報を用いて利用者への広報を行っている。



ぱびるす 第37号 (2003年9月16日)
発行：徳島県立中央図書館
〒762-8587 徳島県上三好市戸田町1番1号
電話 089-723-5441
FAX 089-760-2099
E-mail: lib@seigakuin-u.ac.jp

特集：ホームページのここがウリ！
ホームページから広がる図書館利用

第37号 (2003年9月)
特集：ホームページのここがウリ！

ぱびるす 第30号 (2000年4月)
徳島県立中央図書館
〒762-8587 徳島県上三好市戸田町1番1号
電話 089-723-5441
FAX 089-760-2099
E-mail: lib@seigakuin-u.ac.jp

学問と図書館

第30号 (2000年4月)
節目の30号で「りょくせい」創刊号からの総目次が掲載された

ぱびるす 第41号 (2005年11月1日)
発行：徳島県立中央図書館
〒762-8587 徳島県上三好市戸田町1番1号
電話 089-723-5441
FAX 089-760-2099
E-mail: lib@seigakuin-u.ac.jp

生まれ変わった図書館
キャンパスライフを強力サポート

第41号 (2005年11月)
大きく改装された図書館を大特集！

号館時代) 1967年～1981年



資料は目録カードで探す時代でした



現在の図書館でも使われている雑誌架



視聴覚コーナー

写真で振り返るキャンパスの移り変わり

女子聖学院短期大学卒業アルバム'74より



女子聖学院短期大学卒業アルバム'78より

1970年代

女子聖学院短期大学時代、1974年に体育館が竣工し、1975年に3号館が竣工した。この時期の図書館は、1号館の4～5階に置かれていた。

1967年、学生数125名で始まるが、1979年には学生数が921名となり、大きく学生数を伸ばしている。



聖学院大学卒業アルバム'93より

1980～1990年代

1982年、本館（現・図書館棟）、2号館が竣工。北キャンパスの開発が始まる。図書館は1号館から本館2～4階に移動。1988年、聖学院大学開学の年には、4号館、5号館（現・ディサイル館）が竣工した。

90年代に入ると、1992年に7号館が竣工し、1998年に8号館が竣工。1995年には、3号館が増築されている。

2000年代

2000年、本館（現・図書館棟）にエレベーターが設置され、2005年には大学事務局の置かれていた1階部分も図書館となり、現在の図書館の原型がここに完成する。また、2013年には図書館にアクティブラーニング室を整備。

2004年にチャペル、エルピス館、ヴェリタス館、緑聖ホールが竣工し、北キャンパスが現在の形に整備された。また、2015～2016年に1号館の改修工事が行われた。



聖学院大学卒業アルバム'06より